

活用事例	3 授業中に地震が発生した場合の二次避難場所までの避難訓練 【特色】学校運営協議会の協力による避難時の安全確保		
学校名	周南市立大河内小学校		
日時	平成25年1月30日(水) 2・3時間目		
場所	小学校校舎・運動場 公民館・駐車場	参加者	児童・教職員・学校運営協議委員

1 訓練のねらい

- (1) 授業中に地震が発生した場合に、自分の身を守るための基本的な行動ができるかどうか、また、避難経路の安全を確認しながら、二次避難場所まで整然と避難ができるかどうかを検証する。
- (2) コミュニティ・スクール事業の一環として、二次避難場所までの誘導を学校運営協議委員に協力依頼する等、学校から防災の輪を地域に広げ、児童の安全確保に対する意識を高める。

2 訓練の概要

- (1) 放送で地震の発生を連絡する。
 <地震の効果音を流す>
 - ・教師の指示により、机の下に入って身の安全を確保する。
- (2) 地震終了から1分後、緊急避難命令を聞く。

緊急命令

「訓練訓練、地震発生。ただ今、強い地震がありました。児童の皆さんはそのままの姿勢で静かに先生の話聞いてください。」

緊急避難命令

「地震は収まりましたが、余震の心配があります。児童の皆さんは、先生の

指示に従って、運動場中央に避難してください。そこで、次の指示をします。(先生の誘導に従って、裏門を出て公民館の駐車場に避難してください。)」

<教職員の動き>

- 職員室等にいる教職員による避難場所等の状況確認及び情報収集
 - ・学校施設の破損、火災の発生等はないか
 - ・運動場までの避難経路に問題はないか
 - ・運動場に亀裂や液状化はないか 等
- 避難指示
 - ・周囲の状況に注意しながら、直ちに運動場に避難すること。屋外を移動する際は、できるだけ建物から離れて避難すること
- 児童の誘導
 - ・事前に定めている避難経路に従って運動場に避難すること
 - ・職員室にいる教職員(教頭・事務)は、児童全員が安全に避難したことを確認すること



- (3) 運動場中央に整列し、座る。
- 各学年とも1列に並ぶ。校舎に向かって1・4年、2・5年、3・6年の順に並ぶ。(事前にペア学年を決めて練習しておく。)
 - 人数確認がすんだら、その場に座って待つ。



- (4) 二次避難場所の公民館の駐車場に避難する。
- 上学年の児童が下学年の児童を世話しながら、公民館の東駐車場に避難する。
 - 担任以外の教職員及び学校運営協議委員は、予め決めておいたポイントに立ち、交通整理等の安全確保をする。
 - 教職員は、避難経路の状況等を確認しながら、携帯電話やハンドマイクを持ち、連絡を取りながら移動する。



- (5) 児童を整列させ、点呼を取り、人数(行方不明者及び負傷者の有無)を確認した上で、校長(教頭)に報告する。
- 教頭から保護者へのメール配信(地震発生・避難場所・児童の引き渡し等)
- (6) 校長等による指導講評を行う。
- 校長から講評と地域の代表の紹介(学校運営協議委員、公民館主事)
 - 地域の代表から感想と地域防災の説明
- ※ 教職員は集合し、二次避難場所への移動後の役割分担を確認する。



3 訓練の成果と課題

【成果】

- ◇ 事前にペア学年を決め、二次避難場所までの避難行動や経路確認をすることで、児童・教職員の危機意識・防災意識が高まった。また、学校運営協議委員の方々に横断歩道や階段などのポイントに立って誘導していただいたのが良かった。

【課題】

- ◆ 学校だけで、避難訓練の実施は周知していたが、避難場所や児童の引き渡し方法など、PTAで検討していきたい。
- ◆ 今後も地域のコミュニティの会議を通して学校の取組を紹介していただき、防災の輪(訓練への参加)を広げたい。